



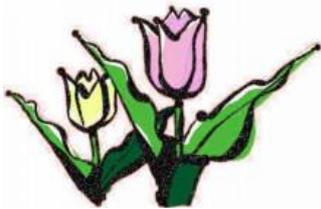
オランダからの受け入れ (2018年)

東北支部会員 仙台市

受け入れ 4月22日～4月24日 男性 T.V、25才 女性 J.F 27才

爽やかな若いカップルを受け入れました。最近私は体調がすぐれずここ数年、外国に出て行くことを諦めていました。ですから英語でコミュニケーションができるサーバス・トラベラーの受け入れがとても楽しみでした。

オランダ人の T と J はアジアの国々に大変興味があり既にタイ、韓国、マレーシア、インドネシア、ラオスなどを旅しています。Juda はこの旅のために仕事を辞めて来たそうです。ふたりは若いのに日本とオランダの文化交流の歴史を良く知っていて



話が弾みました。異文化体験が好きな彼らの好奇心は旺盛で私たちは彼らから

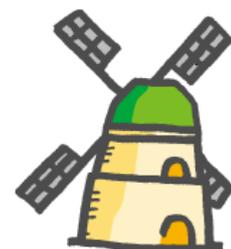
沢山の元気ももらえて楽しい3日間でした。これからも若い人と時代を超えて通じ合うものを見つけられたらと願っています。



最近では珍しくなっているヒッチハイクをして東京から仙台の我が家に来ました。通常のトラベラーであつたら、まず私が最寄りの駅に迎えに行くことになっているので、この日も電話を待っていました。ところが夕方、玄関のチャイムが鳴って T と J が笑顔で私たちの前に立っているのですから本当に驚きました。

スマホを使いこなしている彼らは駅から徒歩で1時間全く迷うことなく我が家に着いたようで、スマホを使わない私には彼らの行動に感動してしまいました。今回の受け入れで、サーバス・トラベラーの間に「スマホ時代」が来たことを実感しました。

日本語の勉強はしていないのに、スマホから旅の目的地の漢字を見つけ出し「手書きカード」を作っていました。ここ10年間ほど、夫の会社にはパキスタン人、ロシア人、ガーナ人、中国人等の外国人が働いています。ふたりは日本で働く外国人労働者会ってみたいと翌朝、夫と共に出かけに行きました。そこで2時間ほどの楽しい交流をしてから夫は彼らを松島海岸まで送って行きました。ここでもスマホが彼らに情報をくれて迷うことなく松島観光を満喫し、前日と同じく駅から1時間歩いて夕食までに戻っ



てきました。本当に手のかからないトラベラーでした。

翌朝、出勤する夫に近くの仙台・野村インターまで送ってもらい、安比高原に向けて出発して行きました。ここからもヒッチハイクで行くのでしょうか。手には「安比」と書かれた手作りのカードをしっかりと持っていました。安比高原では知人の経営するホテルで 5 週間泊めてもらい、ホテルの仕事を手伝い、代わりとして宿泊料金は無料にもらえる約束が出来ているそうです。今回は若いトラベラーならではの旅の一つの形を見させてもらいました。安比高原のホテルで宿泊客のために多めに活躍していることでしょう。